

議会だより入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No.167
2013年11月27日



じゅわ〜と
にゅうぜん

目次

こあら保育所園児も盛りあげる（新屋公民館祭り）

若者の定住促進に向け	2P
保育所退所問題の改善を（常任委員会レポート）	4P
人員配置と職務体制の見直しを（決算特別委員会レポート）	6P
町政を問う 一般質問（7議員）	7P
新しい議会組織決まる	14P
奉納米吊り（入善の祭り）	16P

9月
定例会

若者の定住促進に向け

9月議会の
あらまし

新たな町営住宅制度を新設

補正予算の概要

9月議会は、3日から19日までの17日間開会し、初日に平成24年度決算を認定した。また、町長から提案のあった平成25年度補正予算3件、条例の一部改正など議案6件や議員提出議案1件、教育委員会委員の任命の同意について審議し、すべて可決した。
また、請願2件を審査したほか、11日、12日に一般質問が行われ、7人の議員が質問に立ち論戦が交わされた。

9月議会に提案された一般会計の補正予算は、町内中小企業や農業経営体に対する補助金の増額、道路の冠水事故防止対策に係る工事請負費などが予算化された。
一般会計で2億4526万円を追加し、総額110億3995万円とした。
特別会計では、簡易水道特別会計で200万円、下水道特別会計で9850万円の追加を行った。

主な事業

○ 行政診断業務委託料 238万円
今後の行財政改革および職員定数管理計画策定のため、事務量や人員配置についての診断を行う。

○ 担い手育成対策事業費 600万円
農業機械を導入する2つの経営体に補助をする。

○ 企業立地推進事業費 2000万円
町内中小企業の設備投資申請件数の増加に伴い、補助金を増額する。

○ 交通安全施設整備事業費 800万円
国道8号バイパスやJR線の下を通る町道の冠水事故防止対策として注意看板設置、路面表示を行う。

○ 風力発電設備建設補助金の返納 9850万円
売電単価で有利な固定買取制度へ移行するため、国の補助金を返還する。

平成24年度決算認定

一般会計については賛成多数で認定、他6特別会計は賛成全員で認定された。

一般会計決算反対討論

九里 郁子 議員

4億5000万円を超える基金が積立てられている。将来の財源確保に努めることは必要だが、町民からの様々な要望を先送りせず、一つでも多くの事業に着手するべきだ。行財政改革による過度の職員削減が、住民サービスの低下を招いている。事業が多岐にわたる課の分割、再編を検討するべきだ。また、住民の保育への要望に応えるべく、保育士の採用を進められたい。

主な条例の制定

・ 地域医療体制整備事業条例の制定
地域医療体制を推進するため、病院などの新設、増設への支援制度を創設する。

・ 定住促進住宅条例の制定
若者の定住促進と、安心して子育てができる住環境の整備を図るため、町独自の町営住宅制度を創設する。

議員提出議案

● 国民的議論なくして一方的に進められる道州制の導入に反対する意見書

道州制の導入は、国と地方が相互に信頼・協力し進めるべきものであるが、地方の意見を聞くことなく進められている。

よって、国民的議論なくしての道州制導入には反対であり、国に意見書を提出する。

賛成全員で可決とした

請願

国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願書

請願者 新川民主商工会

賛成討論

松田 俊弘 議員

消費税率引き上げで国の税収増は約6兆円だ。政府は、景気の腰折れ対策として公共事業中心に5兆円を投入するという。安倍首相は「増収分は全額、社会保障費に充てる」と明言してきており、話が違う。

これまでの消費税総額は264兆円であり、この間の大企業の法人税の減税総額は246兆円だ。結局、消費税は大企業減税の穴埋めに使われてきた。増税はきつぱりとやめるべきだ。

反対多数で不採択とした

TPP交渉からの撤退を求める意見書提出の請願

請願者 農民運動富山県連合会

賛成討論

松田 俊弘 議員

入善町議会は、菅政権にも野田政権にも「TPP交渉参加反対」の意見書を出してきた。TPPの交渉は、一切秘密で国民にはなんら明らかにされていない。

今回の請願も、当議会が政府に要望してきたものと趣旨は同じだ。町農業、地域経済を守るためにもTPP参加はやめるべきだ。

反対多数で不採択とした

教育委員会委員の同意

平成25年9月30日で任期満了となる島加代子氏の再任と、同日をもって退任される柚木俊二氏の後任として、竹内寛行氏の任命にそれぞれ同意した。



島 加代子 氏
(荒又)



竹内 寛行 氏
(入膳)

8月臨時会

8月2日

補正予算

8月臨時議会は、平成25年度一般会計補正予算1件を審議し、可決したほか、平成24年度決算が提案され、特別委員会を設置し、審査することとした。

また、下水道事業の諸問題を調査研究し、その対応を図るために、下水道対策特別委員会が設置された。

主な事業

○ 社会教育推進事業費

613万円

9月から実施する上青小学校区と黒東小学校区の学童保育指導員賃金など、運営に係る費用を計上する。



9月から実施された上青小学校での学童保育

レポート

総務 常任委員会

消費者行政 今後の対応は

Q サギ商法など高齢者被害は拡大傾向にある。国の消費者行政活性化事業への補助制度は今年度で終了するが、来年度以降はどう対応するのか、今後も継続的な取り組みを。

A 消費者保護の立場から、注意喚起など絶え間なく取組むことが大事であり、継続的に取組みたい。

行政診断は丸投げせず、あり方の検討を

Q 行政診断をコンサルタントに丸投げするのではなく、今後の方向性など意見を出し合



がんばる保育士（飯野保育所）

い、しっかりとした取組みが必要だ。

A 第3次行財政改革大綱などの策定のため、日本経営協会へ事務量や人員配置について診断を委託する。類似規模団体との比較を行うものだが、丸投げではなく、来年度、町民懇話会などでも意見を聴きたい。

子育て支援ニーズ調査の内容は

Q ニーズ調査で、保護者などの要望をどう反映させていくのか。調査の取りまとめに委員会設置とのことだが、目的は何か。

A 国の指針に基づくニーズ調査であるが、

町独自の調査項目も取り入れたい。調査を受けて、今後どう対応していくか委員会が方向性を出していく。

育児休業に伴う保育所退所問題の改善を

Q 昨年度、育児休業に伴い、1歳児、2歳児で16人が退所した。臨時保育士が確保できず、現場対応が困難になっているのではないか。

A 3歳以上児は集団生活の向上など保育以外の目的もあるので退所は求めない。未満児については家庭の状況などを丁寧に聴いて判断している。

Q 保育士の新規採用に12人の応募があった

が2人の採用にとどまること。職員の定員管理の縛りをとらないと解決できない。方針転換が必要だ。

A 保育士の採用について住所要件をなくした。12月に、臨時職員の登用に取組みたい。

こんな意見も

● 保育所の実態は、臨時職員が全体の45%を占めるいびつな状態だ。行財政改革で一番の影響を受けている。担当課長は安心した保育のあり方を職員と十分話し合い、町長に具申すべきだ。

● 合併60周年の節目、舟見連絡所のあり方について議論すべき時期ではないか。

常任委員会

産業教育 常任委員会

経営体育成支援事業 の内容は

Q 農家への経営体育成支援事業とは、どのような内容か。

A 農業機械などの導入に助成するものである。6月補正では11経営体に助成を行った。今回の補正予算では、さらに2つの経営体に支援する。

申請件数は9件だったが、法人化や多角経営化、高品質化や6次産業化への取組みなどを、ポイント制で評価し、2つの経営体に絞られた。

公共交通運輸対策事業とは

Q 新幹線二次交通整備

調査業務とはどのような調査か。

A 新幹線駅からの二次交通の需要調査だ。併せてデマンドを含む町営バスの見直しの検討が必要になる。まずはその調査の業務委託だ。

企業立地推進事業費 の内容は

Q 中小企業設備投資促進事業の適用基準はどのような内容か。

A 町内企業の設備投資に対する助成だ。2500万円以上の投資に対し、5%（限度額5



冠水時は通行禁止（8号バイパス下の町道）

道路の冠水事故防止 対策の取組みは

Q この事業の具体的な内容は。

A 国道8号バイパスなどの下を通る町道の冠水事故防止対策だ。注意喚起のために、26カ所に看板を取付ける。また、3カ所に水深のカラー表示をする。

こんな意見も

● 沢スギは、以前は人が管理し、用材としても利



沢スギと沢スギ自然館

用した。沢スギの保存方法については、地元の沢スギに関わってきた先輩方の意見を聞くのも大切だ。

● フォレストグローブ市やカンボジアとの国際交流が活発だ。これからもしっかりとした取組みを願う。海外留学に繋がっていくような視点も必要ではないか。

人員配置と職務体制の見直しを

決算特別委員会レポート

審査の経過

8月2日から、7回にわたり平成24年度の一般会計および特別会計の審査が行われた。

8月21日には、小水力発電実験予定地や入善浄化センター、入善児童センターと桃李小学校で行われている学童保育などの実施状況を視察し、事業の結果や現況把握を行った。

付託案件はすべて認定

8月23日に採決を行い、一般会計の決算認定については賛成多数、国民健康保険や下水道など6つの特別会計については、賛成全員で認定すべきと決した。

主な質疑応答

適正な人員配置と職務体制の確立を

Q 近年の事務量の増

大や行財政改革によるスリム化で、職員一人あたりの仕事量は増大している。

また保育所では、職員不足が常態化しており、保育士全体の45%が臨時職員という状況で、その臨時職員の確保すら難しくなってきた。

現在の職務体制や人員配置、職員数が適正なのか、町の行財政改革の基本をもう一度検証しなければならぬ。

A 職員定員管理計画の見直しの中で、適正な人員配置を考えていく。今年度から2年間

にわたり、行政診断調査を実施する。

公共交通のあり方を再検討すべき

Q 町営バスの利用率が低い。町民の足を守るためにも、戸口送迎のデマンド方式を含め、運行方法などの再検討を。

A 2回の見直しにより、利用率は向上した。デマンド方式も含め、さまざまな角度から運行形態を検討していく。

積極的なカラス対策を

Q 中心市街地におけるカラスのフン害が深刻化している。町のイメージダウンにもつながりかねず、積極的な対策が必要だ。

A 檻による捕獲や猟友会による駆除などを行っているが、有効な手立てが無いのが現状。全国的にも苦慮している。

地域のささえあい推進事業のPRを

Q 住民が主体となっていく伝統芸能の衣装の更新や側溝の改修などに補助をする「地域のささえあい推進事業」がある。

A 内容が難しく、熟知していなければ有効に活用できず、不公平感がある。具体的な事業を紹介しながらPRしてはどうか。

A 具体的に紹介できるように取組みたい。

様々な補助金が地域へ交付されているが、それらの一本化も視野に入れていくことが必要だ。

こんな意見も

● 町民の財産である美術品の大半が、展示されず保管庫で眠ったままである。ホームページへの掲載など活用方法を工夫すべきだ。

● 保育料の算定誤りは町民の信頼を失墜しかねない重大問題だ。役場全体が、全事業に緊張感を持って取り組むよう、注意を喚起する。

◆決算特別委員会

委員長	五十里隆章
副委員長	九里 郁子
委員	元島 正隆
〃	佐藤 一仁
〃	野島 浩



伝統芸能の継承に一役

保育所の入所制限をなくすため

正規保育士の増員を

健康福祉課長 住民サービスの向上に つながるよう検討していく



負担の大きい保育現場

問 「2人目の子どもが生まれ育児休業に入ったから、保育所に預けていた上の子の入所を断られた」との訴えが多く寄せられている。

保育士の約半数を占める臨時職員を確保できず、保育現場に負担がかかっている。正規保育士を増やすべきだ。

保育の部屋は手狭で、受入れを断られた。夏休みなど子どもたちが利用できる児童館があれば」との要望が強い。

桃李小近くに児童館をつくり、そこで学童保育も実施してはどうか。

問 これまで、海岸の管理用道路から海側の防災林の松枯れ対策は、国土交通省の海岸事務所をお願いしてきた。

小堀健康福祉課長 正規保育士の増員は、今後の保育行政の展望を見据え住民サービスの向上につながるよう、第3次行財政改革や第4次職員定員管理計画策定の中で検討していく。

健康福祉課長 用地確保や建設費用、運営などの面から、早急な建設は困難だ。

米澤町長 農業形態が変化しており、必要水量が変わらないという保証はない。これまで以上に真剣な検討と適切な対応が求められる。

問 事務所側は、最近、防災林は県が行うものだと述べている。海岸管理は国、県のどちらが担うべきなのか。

住民の要望に応え桃李小近くに児童館の建設を 用地や費用などで早期の建設は困難

国土交通省は、来年の合口用水の水利権の見直しを期に、取水量を相当量減らす方針だ。先人たちは、大変な苦勞をして、扇状地の田に水を引き、豊かな地下水を生み出してきた。合口用水の水は町民の財産だ。国が勝手に削減するなど許されない。

国土交通省は、来年の合口用水の水利権の見直しを期に、取水量を相当量減らす方針だ。先人たちは、大変な苦勞をして、扇状地の田に水を引き、豊かな地下水を生み出してきた。合口用水の水は町民の財産だ。国が勝手に削減するなど許されない。

窪野建設下水道課長 海岸法では県が管理者だ。現在、国と県との間で協議が進められており、役割分担が明確になると考える。

問 「桃李小学校の学童



松田 俊弘 議員



がん検診で問診中 (サンウェルの健診室)



大橋 美椰子 議員

男女共同参画の視点からの防災・復興の取組みを求め

町長 災害に強い地域づくりに町民の協力が欠かせない

問 災害時要支援対策の中で、政府が発表した「要援護者の避難支援」と「避難所の整備・運営」に、女性の視点を生

かされたい。

町長 福祉避難所の指定や公共施設のバリアフリー化を進め、地域一体となった運営体制の構築、あるいは訓練を行う。

いかなる時でも避難勧告などの発令を迅速にかつ適切に行う体制整備を図る。地域の協力が欠かせない。

大角総務課長 国の防災基本計画で、復旧・復興の場などに女性の参画が新たに位置付けられた。

自主防災組織などへの積極的な女性の参画と女性リーダーの育成・強化を7月に修正した町地域防災計画に盛り込んだ。

今後、様々な機会を捉

えて女性の参画を促進する。

がん教育の強化を

県の指導や町保健センターとの連携で対応

問 2014年度から小・中・高で「がん教育」を強化する方針が示された。教材・授業・教員の研修など、取組みを示されたい。

滝本教育長 現在小中学校では、がんの起因となる生活習慣や喫煙などとの関係、その予防について学んでいる。

がん教育は自身の健康の大切さを学ぶと同時に

に、病人に対する偏見や差別を無くする重要なきっかけであり、それぞれの家族にも浸透されると考える。

この事業を実施するには、多くの協力が必要であり、県の指導や町保健センターとの連携で、適宜対応していく。

胃がん予防と撲滅への取組みを求める

がんにならないためのPRに努める

問 胃がん検診で採血によるABC検診（ピロリ菌検査を含む）の導入を求める。また、検診費用に無料クーポン券での公費助成を求めたい。

健康福祉課長 ABC検診は胃がんリスク検診と

も言われている。血液検査でピロリ菌の感染の有無と胃粘膜委縮の程度を測定する。

ピロリ菌感染によって胃粘膜の委縮が進むほど、胃がんが発生しやすくなると言われている。がんの予防と早期発見へ、受診率の向上をめざし、ABC検診の導入について検討する。

無料クーポン券での公費助成には、国などの助成はなく、町の単独事業とするには財政的な問題がある。

受診しやすい体制づくりに努め、検診のみではなく、がんにならないために禁煙や生活習慣について細やかなPRに努めたい。

園家山周辺の資源を生かした観光開発を
農水商工 名水環境を最大限に生かした構想を
課長 策定する



整備が待たれる園家山周辺

問 園家山周辺の良質な表層水、地下水、海洋深層水など、貴重な財産を生かした観光開発に組織むべきである。

竹島農水商工課長 園家山周辺には、高瀬湧水の庭、五十里湧水の庭、海洋深層水施設など、町が誇るべき「水」に関わる施設が多い。

この名水環境を最大限生かした整備構想を本年度に策定する。

また、園家山にある勤労青少年ホームなどは老朽化しており、取り壊しが検討されている。

その代わりとなる施設整備やキャンプ場の再整備も併せて、短期的・長期的計画を織り交ぜながら整備構想を策定したい。

問 本年度策定される整備構想を踏まえ、今後の

計画を示せ。

農水商工課長 短期的には、高瀬湧水の庭の環境整備や、五十里湧水の庭に代わる施設を周辺で再整備する。湧水環境を高める案内板の設置なども検討する。

長期的には、園家山周辺の名水環境が、町の観光拠点となるよう議論を重ねる。

芦崎海岸を、海水浴場として整備せよ

様々な施設整備に多額の費用が必要

問 本町には海水浴場がない。夏には連日大勢の海水浴客が訪れる芦崎さ

わやか海岸を、海水浴場に整備してはどうか。

農水商工課長 富山県に、海水浴場設置に関する条例はないが、海水浴場を設置するには、公衆トイレやシャワー、駐車場や監視塔などの設備が必要となる。

多額の費用を要するため、調査を進めながら、海水浴場設置の可能性を模索したい。

県が計画する農業研修施設を本町に誘致せよ
既存施設の有効活用が前提であり、難しい

問 本町には入善高校農業科があり、農地の集積

率も高く、新規就農には最適な地域である。

温泉や冷たい深層水があり、表層水や地下水も豊富で、様々な研修が可能な地域でもある。

新規就農者に富山県農業の中核を担ってもらうためにも、農業研修施設を本町に誘致すべきである。

農水商工課長 県は早急に研修を実施するため、既存施設の有効活用を検討している。

本町は就農研修の適地であり、実地研修の場としての優位性をPRしていきたい。



笹島 春人 議員



ガマが茂る「園家山ゆう水池」

ジオパークの取組みに積極的にかかわる考えはないか
 企画財政課長 町活性化の契機と捉え、関係自治体などと連絡を密にしていきたい



九里 郁子 議員

問 来年秋にも県東部のジオパーク認定を目指した取組みがすすめられている。杉沢の沢スギや湧水などはジオサイトとし

て、地域振興・観光振興に生かせる。積極的にかかわる考えはないか。

梅津企画財政課長 ジオパーク認定は、新たなブランドにもなり、環境や防災、教育など総合的なまちづくりにも期待できる。町活性化の契機と捉え、受入れ態勢づくりにも努めたい。
 県東部地域の自治体などと連絡を密にしたい。

町営バスは手押し車でも乗れるように当面、会社側の介助などで対応したい

問 高齢者から、町営バスに手押し車のまま乗れ

るか、載せる場所があれば助かるとの声がある。低床バスを導入する考えはないか。隣の市町にも通院できるようにしてはどうか。

林副町長 現在3台のうち2台は低床バスである。小摺戸・横山線のバスが低床でなく不便をかけているが、多額の経費がかかり更新は困難。
 運行を委託している会社では、手押し車を載せることや介助などの対応をしてもらっているが、徹底されるよう再度申し入れた。当面はこれで対応したい。

アンケートでも近隣市町の公的病院への運行の

要望は多いが、町内の医療機関との関係などもあり、慎重な検討が必要。
 近隣市町と相談しながら、最適な二次交通を検討したい。

要支援1・2のサービスを町で対応できるのか負担の押し付けだけでは異論を唱えたい

問 国は、要支援1・2を介護保険から切り離し、市町村に任せるとしている。町はこれまでと同じサービスが提供できるのか。

特養のユニット型個室は高額で、国民年金受給者は事実上、利用不可能だ。多床室の施設整備にも国の支援が必要ではないか。

健康福祉課長 町内の要支援1・2の認定者のうち70%の277名がサービスを受けている。一番多いのが通所介護、次いで訪問介護、福祉用具の貸与である。

町で取組むことになれば組織面や財政面の体制整備が必要となる。これまで以上に介護予防の成果が向上するよう国の動向を見ながら万全を期したい。
 市町村に負担を押し付けるだけであれば、明確に異論を唱えたい。
 特養については原則、多床室の設置を認めていない。介護保険組合の次期計画に向け、構成市町と協議しながら検討していきたい。

半年が経過した広域消防の評価は 町長 広域化は最良の選択であった



1市2町の安全の拠点（新川地域消防本部）

問 町民の消防広域化への関心は、非常に高かった。
広域化から半年が経過した時点での、町として

の評価は。

町長 広域化を図ったことによって、車両の出動計画の見直しや大規模災害にも対応できる人員の確保、さらに特殊資機材の整備などが可能となり、消防力の強化に効果があったと考えている。
その結果、救急では、現場到着時間が最大で2分間短縮され、確実に救命率の向上につながっている。

火災では、延焼防止が図られることから、町民の安全・安心に大きく貢献しているものと考えている。

現時点で総合的に評価するならば、組織のスケ

ールメリットが最大限に生かされており、広域化をしたことが、最良の選択であったと確信している。

「全国植樹祭」町の対応は

県や協議会の動向を注意深く見守りたい

問 2017年開催予定の「全国植樹祭」が、48年ぶりに富山県で開催されるのが内定した。

県では、候補地を新川地域を軸に年度内に決定するというのが、町の対応は。

建設下水道課長 5月末に県の調査チームから、

候補地選定のための、調査依頼があった。

この調査を基に、県や林業関係者などで協議を重ねていくものと思われる。

植樹祭開催は、町にとっても、森林の有する多面的機能を再確認する絶好の機会であり、今後の動向を注意深く見守りたい。

学校週五日制の見直しと土曜日の授業再開をアンケート調査も考え慎重に対応したい

問 隔週での土曜授業再開を検討してはどうか。

さらに、土曜授業を利用して、語りべなどが参加する郷土の民話や地域密着型の歴史教育などの

環境づくりこそが「生きる力」を育むことになるのではないかと。

柳澤教育委員長 土曜授業再開については、文科省が今後3年間で全ての公立学校での授業再開を目指したいとしている。

町としては、国や県、近隣市町村の動向や学校、地域の実情も踏まえて慎重に対応したい。

子どもたちには、「学び合い」や「体験」を中心とした学習活動を通して、郷土を愛する心を培い、心身ともに健全で情緒豊かな人間に育ってもらいたいと考えている。

そのためにも、「ふるさと教育」が重要であり、それが「生きる力」に結びつくと考えている。



野島 浩 議員



改善が待たれる運行体制

入善町と朝日町の医療機関巡回バス運行を
農水商工課 両町と医師会との協議も必要



佐藤 一仁 議員

問 入善町地域医療体制整備事業条例の新たな制定の意図は何か。
町長 高齢化の進展や生活習慣病の増加、医師・

看護師不足など、医療の環境が変化している。「かかりつけ医」の定着や在宅医療、訪問看護の推進、地域包括ケア体制の整備など、町民要望の高い地域医療の充実を図りたい。

題だ。
一次救急医療体制を支えていただく開業医の開設などの環境整備に今回の条例を提案した。

医師会や歯科医師会からも、開業医の後継者育成や開設費用の支援、町保健事業への協力など、意見や要望をお聞きした。

問 具体的な医療体制整備促進策を示せ。

健康福祉課長 かかりつけ医や在宅医療など、各種関係機関が連携した医療体制の整備や一次救急医療体制の整備が重点課

問 地域医療体制整備の一環として、町内や朝日町の医療機関に巡回バスを運行してはどうか。

農水商工課長 平成23年度の町営バスについてのアンケートからも、医療機関への希望が多かった。そのため、バス停を医療機関の前や近くに設置するなどして、利用しやすいように設定した。

朝日町への運行については、単に当局同士の協議のみならず、各医師会

などとも協議するなど、慎重な検討が必要と考える。

空席が目立つ町営バスの運行改善を

利用者数は着実に増加

問 多くの町民から「空席が目立つ」と指摘される町営バスの運行効率が悪いように思える。今後の運営体制をどう考えるか。

農水商工課長 平成23年11月からバス3台体制にし、現行の運行ルートにした。平成22年度の1日当たり51・3人の平均乗車数から、平成24年度では64・9人に、昨年のルート変更後は85・8人と利

用者数は増加している。現在は定員30名程度のバスで運行しているため、少人数しか乗っていない印象となっている。定期券導入など、絶えず見直しを行い、乗車人員の増加につなげたい。

問 昨年の公共バス事業での町の負担は、約3200万円だ。予算はどの程度までが妥当と考えるか。

農水商工課長 昨年度は、4463万円の経費に対し、運賃や補助金は1240万円だった。

今後も様々な見直しをし、利用者数を増やすこととで圧縮を図りたい。当面は昨年程度の事業費を負担しながら、3台体制で運行を継続したい。

総合計画の検証と今後の取組みを示せ

町長 有利な財源確保に努めスピード感を
持って事業に着手

問 人口減少に歯止めがかからない今日、地域特性である水資源をセーリングポイントとした大胆な政策の考えはあるか。

町長 水の有効活用と保全を主眼に、小水力発電をはじめとした再生可能エネルギーの活用に向けた取組みや、積極的な企業誘致の推進などによる産業基盤の整備を図っていく。

新たな取組みとして町観光物産協会と連携した特産品の開発・販売や、ジャンボール三世などによるPR活動を行い、町の魅力発信の強化に努める。

行財政改革の検証と今後の取組みは

町職員の増員をも視野に検討

問 広域行政の拡大、権

限委譲による事務量の増大、行財政改革で職員を削減したことが住民サービスの低下につながっている。

職員の定数や課の編成について、今一度考えることが出来ないか。

副町長 町は平成16年、単独町政を選択し、健全財政を堅持できるように徹底した行財政改革に取組んできた。

改革により、財政基盤の強化や安定した町政運営ができるものと捉えているが、行財政改革もたらした代償も非常に大きい。

職員を削減したこととで、仕事の遅れやチェック

機能が働かない事例も見受けられるようになった。

今後町は、職員数の増員を視野にいれ、臨時職員への依存体質の改善、組織機構の見直しにも取り組んでいきたい。

不安視する新川広域圏事業の有り方

広域事業全般を幹事会で協議検討

問 焼却施設であるエコぼくとの発電施設整備の将来計画を示すべきだ。

企画財政課長 平成20年にビニプラの埋立量の減少を図るため、エコぼくとの混焼を行い、排熱による発電の試算をし

た。結果は、埋立て処理の2倍程度の事業費がかかる試算された。

その後、施設の耐用年数も相当経過していることから、改めて発電施設の導入も含めたエコぼくとの将来計画を早急に構成団体と協議を進める。

問 新川地区での共同事業は2市2町でなく、1市2町での事業が多いが今後の広域圏のあり方を示せ。

企画財政課長 平成の大合併が終結した現在、枠組みも含めた広域による共同処理のあり方を今一度精査することも必要だ。幹事会において調査・検討を重ねていく。



住民サービスに対応できる職員数を



元島 正隆 議員

新しい 議会組織決まる

臨時議会
10月30日

就任のごあいさつ

議長

中瀬 範幸

このたび、議員各位のご推挙を賜り、議長に就任させていただきますました。

身に余る光栄であると同時に、その責務の重さを痛感しております。

もとより浅学非才ではありますが、皆様のご指導、ご鞭撻をいただき、活力ある豊かな町づくりを目ざして、粉骨砕身がんばる決意であります。

町を取巻く状況は、安全・安心、少子・高齢化、人口減少、農業問題など諸課題が山積しています。

これらの諸課題を、町民の皆さん、議会、町当局と共に考え、解決に向け努力していく所存です。

皆様の一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

副議長

鬼原 征彦

このたびの、組織議会におきまして、全会一致の御推挙により副議長の要職に就くことになりました。まことに身に余る光栄であり、その重責に身の引き締まる思いです。

もとより、浅学非才ではありますが、議長を補佐し、町当局と車の両輪の立場で、活力ある町づくりに全力で当たる覚悟です。

今、市町村を取り巻く状況は、誠に多難な局面にあります。ことに基幹産業である農業政策や人口減少、少子高齢化の進展による地域コミュニティの衰退などがあげられます。

厳しい課題ばかりが目につきますが、議会の役割を十分認識し、町政の発展に尽くしてまいります。

☆議会運営委員会

委員長	谷口 一男
副委員長	松澤 孝浩
委員	松田 俊弘
〃	佐藤 一仁
〃	笹島 春人
〃	野島 浩

☆並行在来線・交通網対策特別委員会

委員長	佐藤 一仁
副委員長	田中 伸一
委員	谷口 一男
〃	山下 勇
〃	中瀬 範幸
〃	五十里忠茂
〃	中瀬 淳哉

☆総務常任委員会

委員長	笹島 春人
副委員長	中瀬 淳哉
委員	谷口 一男
〃	山下 勇
〃	松澤 孝浩
〃	中瀬 範幸
〃	五十里忠茂

☆環境・下水道対策特別委員会

委員長	松澤 孝浩
副委員長	松田 俊弘
委員	大橋美椰子
〃	鬼原 征彦
〃	笹島 春人
〃	野島 浩
〃	五十里忠茂

☆産業教育常任委員会

委員長	野島 浩
副委員長	田中 伸一
委員	大橋美椰子
〃	松田 俊弘
〃	鬼原 征彦
〃	佐藤 一仁
〃	五十里忠茂

☆議会広報編集特別委員会

委員長	鬼原 征彦
副委員長	松田 俊弘
委員	笹島 春人
〃	野島 浩
〃	田中 伸一
〃	中瀬 淳哉

☆新川広域圏事務
組合議会

議員
中瀬 範幸
松澤 孝浩
佐藤 一仁

☆新川地域介護保険
組合議会

議員
中瀬 範幸
松田 俊弘
笹島 春人

☆新川地域消防
組合議会

議員
中瀬 範幸
谷口 一男
野島 浩

☆後期高齢者医療
広域連合議会

議員
山下 勇

☆監査委員

委員
大橋美椰子

☆農業委員会

委員
野島 浩

用地の取得を承認

臨時議会では、上原・青木
統合保育所整備事業に伴う用
地の取得について承認した。

統合保育所用地
上野255-1
外2筆
面積 6936㎡
取得価格 3676万800円

新議員の紹介

〔議席順〕〔敬称略〕
氏名、年齢（10月30日現在）、
党派新旧別、当選回数、職業、
住所の順



五十里 国明 69
無新①
会社役員、東五十里



五十里 忠茂 65
無新①
無職、東五十里



田中 伸一 59
自新①
農業、田中



中瀬 淳哉 35
無新①
会社役員、入膳



中瀬 範幸 68
自現④
農業、上野



鬼原 征彦 72
無現③
農業、浦山新



佐藤 一仁 58
自現③
旅行業、横山



笹島 春人 64
無現②
無職、笹原



野島 浩 58
無現②
会社役員、舟見



谷口 一男 63
自現⑤
農畜産業、柵山



山下 勇 71
自現⑤
農業、芦崎



大橋 美椰子 69
無現⑤
無職、入膳



松田 俊弘 57
共現⑤
政党役員、春日



松澤 孝浩 51
無現⑤
電気工事業、青木

入善の祭り

奉納米吊り(舟見)

今年も、7年に一度の祭りである「奉納米吊り」が、中尾山十三寺の観音像御開帳に合わせて10月20日に行われた。

「どっこい、どっこい」の掛け声と共に、手にした青竹を左右に振りながら、3歩進んで2歩さがるといふ独特の歩調で、約3km先の十三寺を目指して練り歩く。

米吊り道中は、露払いの願念坊主や農民、花嫁、殿様などに仮装した一行が、いかにも楽しそうに踊りながら行列を先



「どっこい、どっこい」3歩進んで2歩さがる

導する。

続いて、米俵、酒樽、長持などを担いだ一行、10基余りが米吊り唄の音頭に合せて続く。

早朝の7時半頃、舟見8区(愛場)公民館を出発し、夕方までのほぼ1日ばかりで舟見街道を練り歩く。

言い伝えによれば、ふなみ野(ひばり野台地)は、高台に位置する事から、古くより水利に恵まれず、先人たちは農作物の収穫に大変苦労したとの事である。

農作業の終わったこの時期に、収穫の喜びから米などを近隣の神社やお寺へ奉納したのが始まりともされている。

中尾山十三寺

十三寺は、現在北陸33番札所として、全国から巡礼者や観光客が訪れる古刹である。

十三寺には、日本の秘仏百体に数えられ、県が重要文化財に指定した三尊像が安置されている。尊像が安置されている。行基作といわれる千手観音、聖観音、馬頭観音の立像である。

現存する十三寺※縁起には、舟見の惣鎮守として、郷土豊饒と、万民が平和で楽しく暮らすことを祈願して、7年毎に錦帳を開いて尊像を拝することとした、と記されている。

米吊りの歴史には諸説あるが、現在の形が出来上がったのは、十三寺御開帳のお祝いにちなんだものと想像する事ができる。

伝統継承へ 保存会を組織

この貴重な伝統行事も一時期中断されていたが、昭和58年に24年振り



中尾山十三寺

に復活した。

当初は、7区小森水青年団が中心となっていたが、後に7区・8区の実行委員会へと移った。

近年の少子高齢化による担ぎ手や協力者不足により、平成19年に舟見地区全域から若手有志を募って、米吊り保存会が組織された。

さらに、ひばり野小学校の児童生徒の参加も得て、地区全体でこの伝統文化の継承に努めている。

※縁起IIものごとの起り。社寺などの由来。

編集の窓

本年は、記録的な猛暑日が続いたと思いきや、一気に冬の季節を迎えた感があります。また、台風が発生も多く、30号はフィリピンで猛威をふるい、甚大な被害をもたらしました。衷心よりお見舞い申し上げます。予測もつかない自然の猛威に、大きな気候変動の警告を予感します。

さて、この度議会の組織も改まり、議会広報編集特別委員会も新人の議員が加わりました。

清新な気持ちで、読んでもらえる紙面づくりに取り組んでいきたいと決意を新たにしています。

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 議長 | 中瀬 範幸 |
| 委員長 | 鬼原 征彦 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員 | 笹島 春人 |
| 〃 | 野島 浩 |
| 〃 | 田中 伸一 |
| 〃 | 中瀬 淳哉 |